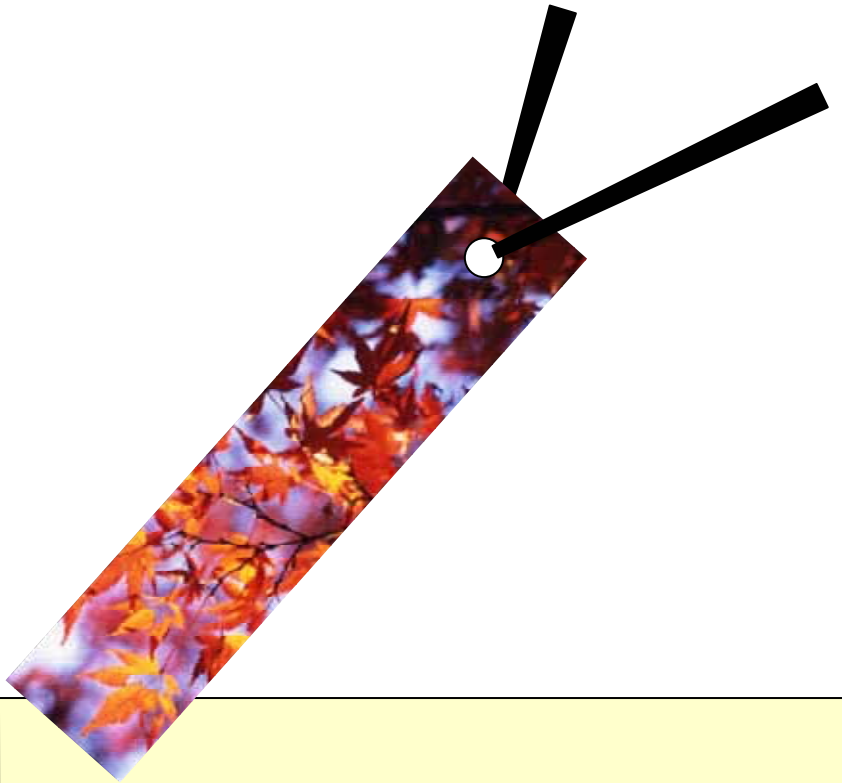


Lib.

v.31, no.2 (Oct. 15, 2004)



特集

物語に出会える町 作家たちの描いた京都

| | |
|-----------------------|---------|
| <海外の大学図書館紹介> | 5 - 7 |
| ストーニー・ブルック大学とそのメイン図書館 | 山田 昌孝 |
| ジュネーヴ, みんなと大学の図書館 訪問記 | 竹内 富士雄 |
| <インターンシップ・レポート> | 8 |
| <情報の探し方> | 9 |
| <Lib.なび> | 10 - 11 |
| 図書・雑誌・映画・音楽 | |
| 教員文庫寄贈一覧 | 12 |
| Information | |

<自著を語る>

- 『オーケストラのマネジメント』 大木 裕子
- 『発展途上国の児童労働』 藤野 敦子
- 『いま、もう一つの素粒子論入門』 益川 敏英
- 『日本の政治経済とアジア諸国』 芦立 秀朗



Photo 安永 朋弘 写真部 4年

特集



京都を歩けば、いつでもその歴史の深さにふれることができます。
また京都でしか味わうことのできない季節感や風情は、
この地を訪れた人を魅了してやみません。
とりわけ、言葉を巧みに操り、その豊かな感受性を表現する作家たちにとって、
京都は物語が生まれる絶好の場所。
今号では京都を舞台にした作品を紹介します。
地図を手に、作家たちの描いた京都を歩いてみませんか？

『檸檬』 梶井基次郎 請求記号 913.6-KAZ/2階

その果物屋は私の知っていた範囲でもっとも好きな店であった。

果物屋固有の美しさが最も露骨に感ぜられた。…寺町通は一体に賑やかな通りで…と云って感じは東京や大阪よりずっと澄んでゐるが…飾光がおびただしく街路へ流れ出てゐる。

『檸檬』が発表されたのは大正15年。現在も古本屋や茶道具・骨董品店などが軒を連ねる寺町通は、その頃京都のメインストリートであった。主人公「私」は**八百卯**(MAP)で買ったレモンを持って、**丸善**(MAP)に入る。

丸善は現在河原町通にあるが、当時は寺町通と三条通の交差する西にあった。「私」は美術書の棚にレモンを置いて出る。そしてレモンが大爆発を起こす空想にふけりながら、京極通を下って行くのである。

梶井が『檸檬』の草稿を書いたのは22歳。友人たちと立ち上げた小さな同人誌に発表されただけで、生前はほとんど日の目を見ることはなかった。文庫版でわずか8頁の短い作品だが、文学好きの若者たちに愛読されてきた。梶井は31歳という若さで亡くなってしまふのであるが、病に蝕まれた身体を抱え、彼の精神は常に死と隣り合わせにいた。そんな彼と若者の心は、何か漠然とした不安を抱えているという点で、時代を超えて通じるものがあるのかもしれない。

八百卯は明治12年からずっとこの場所で商っている。二条通に面した窓越しに、『檸檬』ゆかりの記事や写真が展示され、今でも梶井の世界を感じることができる。



『竜馬がゆく』 司馬遼太郎 請求記号 913.6-SIB/2階

幸い、あたりは闇である。

二人はどンドン逃げ、錦小路まできてやっと歩度をゆるめた。

「池久へ寄ろう」

と中井はいった。数屋町姉小路の池村屋久兵衛という書店である。当時、京の市中の人気は過激勤王派に肩入れし、すすんでこれをかばった侠客も多い。池村屋久兵衛もそのひとりであった。

河原町三条の材木屋「酢屋」、現在も残る伏見の船宿「寺田屋」、そして竜馬最後の地となった四条河原町上ルにあった醤油屋「**近江屋**」(MAP)。すべて竜馬の隠れ家である。

竜馬の毎日は忙しかった。午前は薩摩の西郷や大久保と会い、午後は洛北岩倉村で岩倉具視と会い、夜は花街・三本木の酒樓で土佐藩官僚と会う。彼は京の町中を飛び回っていた。

竜馬は自分自身をこう語る。

坂本竜馬は一人の日本の人民である。禄もなければ爵もない。いずれの藩にも属せず日本にのみ属している。幕府にも薩長土にもつかず、その側の利益でものを考えたことがないし、また考える義理もない。ただ日本のために良かれとのみ考えている。

身分に生きるのではなく、ただ国を愛する一人の人間として生きた竜馬。そんな彼の考え方は、その頃の時代の枠に収まるはずもなかった。

彼の名がこれほどまでに、世で有名になったきっかけとされるエピソードも実におもしろい。これは司馬遼太郎があとがきで触れているので、最後までじっくりと読んでいただきたい。

『虞美人草』 夏目漱石 請求記号 913.6-NAT/ 2階

「恐ろしい頑固な山だなあ」
「あんなに見えるんだから、訳はない」
「あんなに見えるって、見えるのは今朝宿を立つ時から見え
て居る。京都へ来て叡山が見えなくなっちゃ大変だ」

夏目漱石が作家として初めて書いた長編小説『虞美人草』は、主人公の甲野さんと宗近君が比叡山へ登る場面から始まる。二人は三条から八瀬をぬけて、愚痴をこぼしながら坂道を登る。

「今日は山端の平八茶屋(MAP)で一日遊んだ方がよかった。今から登ったって中途半端になる許りだ」

若狭から京に魚を運ぶ若狭街道(鯖街道)の入り口にある老舗山ばな平八茶屋は、漱石が親友正岡子規や子規の弟子だった高浜虚子と訪れた場所である。『門』にも平八茶屋で川魚を焼いてもらうという場面があり、漱石の心に残る京都の風景の一つといえるだろう。



『古都』 川端康成 請求記号 913.6-KAW/ 2階

「千重子さん、高雄のみみじの若葉、見においきいしまへんか」

生後まもなく室町通の呉服問屋の前に捨てられた主人公千重子は、友人の真砂子から誘われた。

「北山杉が見たいわ。高雄から近おすやろ。北山杉のまっすぐに、きれいに立ってるのをながめると、うちは心がすうととする」

北山杉に引き寄せられる千重子は、その村で自分と双生児として生まれた苗子とすれ違う。二人は祇園祭の山鉾巡行が迫った日に四条で出会い、初めて姉妹であることを直感する。

昭和36年から107回にわたって朝日新聞に連載された『古都』は、京都の四季折々の年中行事や名所が多く描かれた作品である。なかでもこの作品によって一躍有名になったと言われている北山杉は作品中に4回も登場し、周山街道にある北山杉資料館には『古都』の一章を刻んだ「古都抄」文学碑がたっている。また、川端が愛した麩屋町にある湯波の老舗「湯波半」(MAP)や「瓢正」(MAP)の笹巻き寿司も作品に登場する。川端の描いた古きよき京都を『古都』を読みながら巡ってみては？



『おこしやす 京都の老舗旅館「柊家」で仲居六十年』 田口八重

請求記号 688.8-TAG/ 2階・京都コーナー

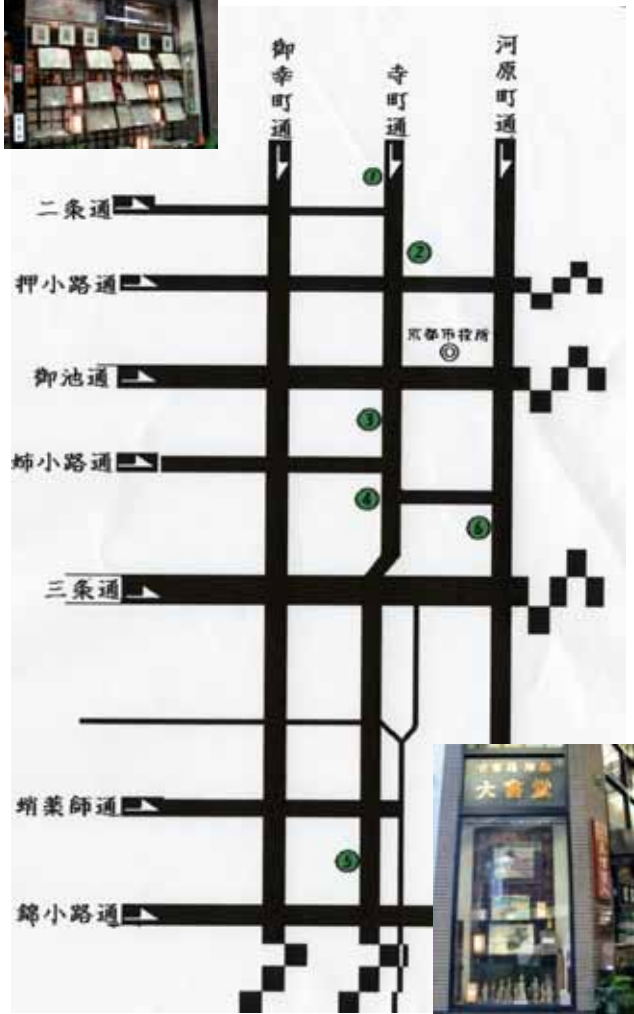
創業文政元年(1818年)の柊家(MAP)は、木造2階建て数寄屋造り、1階の座敷はすべて坪庭付きという、京都の情緒に満ちた老舗旅館。川端康成、林芙美子、三島由紀夫、日本画家の横山大観、安田靉彦といった多くの著名人が柊家を訪れた。旅先の宿で小説を書くことが多かったという川端康成はここを定宿とし、柊家を古都の一つの象徴であるとして次のような紹介文を書いている。

京都ではいつも柊家に泊って、あの柊の葉の模様の夜具にもなじみが深い.....柊の模様は夜具やゆかたばかりではなく、湯呑や飯茶碗などの瀬戸物にも、みだれ箱や扇入れなどにも、ついているのだが、その柊は目立たない。またそれらの調度は、十年、二十年 戦時も戦後も変わらない.....この目立たないことゝ変わらないことは、古い都の柊家のいゝところだ。

心からのくつろぎを与えてくれる柊家に日常から離れた京都の風景を求めて、作家たちは京都を訪れるのかもしれない。



『檸檬』が発表された大正15年当時、京都のメインストリートだった寺町通。現在では多くの古書店が軒を連ねています。取り扱う分野も店によって様々。今号では寺町通周辺の古書店から6店を紹介します。京都ならではの面白いものを発見できるお店もあります。ぜひ一度足を運んでみてください。



藝林荘

創業は昭和初期。古文書や古筆切、短冊、懐紙、写経・版経など幅広い古典籍を扱っている。また、「都名所車」「嵯峨名所案内記」など京都近辺の名所図や絵地図もそろっている。訪れるのは研究者のほか、茶人も多いという。

尚学堂書店

江戸時代から現代にいたるまで、幅広く扱うお店。国文学、歴史、風俗、美術をはじめ、俳句、歌謡といった趣味の本、絶版本や雑誌類も豊富にそろっている。今夏改装されたので、来たことのある人も一度足を運んでみては？

佐々木竹苞楼

本能寺向いにある寛延元（1748）年創業の老舗。7代続く日本最古の古書店で、古典籍を中心に美術書、国文学、茶道や料理といった趣味の本を扱っている。また文人画家富岡鉄斎とのなじみが深く、この店の2階に下宿していたとのこと。

其中堂

仏教書専門店。僧侶や研究者向けの専門書が中心だが、一般向けの書籍もある。あらゆる宗派・時代の仏教書やインド仏教、チベット仏教関係の研究書も扱っている。寺町通でもひときわ目を引く中国風の建物。



大書堂

一步店内に入ると、色鮮やかな版画に囲まれる。こちらでは木版美術を扱っているが、なかでも京都で作られ、京都だけで流通していた木版刷りにこだわりをみせている。2階には千社札やマッチラベルなどユニークな物も。ギャラリーのようなお店。

キクオ書店

創業は大正11年。河原町通のショーウィンドウには古地図や銅版画が並んでいる。専門は和洋歴史関係で、洋書は日本について書かれたものが多い。ほかには写本や博物学関係、銅板・石版・木版画の一枚刷りもある。店の奥には小さなサロンも併設されているそう。

《特集題字・地図 - デザインクラブ 佐伯 聡仁 3年》

図書館2階 京都コーナーをご存知ですか？

みなさんは、図書館2階の京都コーナーをご存知ですか？ 京都の歴史や地理、文化や芸術、自然や産業、京言葉や文学などに関する資料を幅広く収集し、新聞コーナーの壁面の書架に配架しています。ここではその一部を紹介します。京都散策・レポート作成に大いに活用してください。

- * 京都人だけが知っている
- * 言葉は京でつづられた。
- * 京の町家めぐり
- * 文学散歩 京都編
- * 池波正太郎が歩いた京都

- 請求記号 291.62-IRI
- 291.62-KY0-7
- 383.91-KUR
- 910.26-KAN
- 910.268-IKE

- 入江敦彦 著 / 洋泉社
- 姫野希美 編 / 青幻舎
- 蔵田敏明 文；柴田佳彦 写真 / 淡交社
- 関西文学散歩の会 編 / 関西書院
- 蔵田敏明 著；宮武秀治 写真 / 淡交社

海外の大学図書館紹介

ストーニー・ブルック大学とそのメイン図書館

山田 昌孝

ここストーニー・ブルック大学は、カリフォルニア州立大学が複数の大学で構成されているのと同じようにニューヨーク州の州都にあるオーバニー校やバッファロー校など複数の大学の中の一つです。マンハッタン島から大西洋に東西に張り出したロングアイランドという四国くらいの面積の島の東端から3分の1くらいに位置しコネチカット側にあります。ストーニー・ブルック大学はシティからロングアイランド鉄道で2時間ほどのところにあり、ロングアイランドの中では最大の大学（学生総数は2万超）であり州立大学なので、この地域に対するこの図書館の役割は重要のようです。大学自体は、医学部もあり歴史的には理工系が中心で、社会学や心理学、社会福祉学など充実しているようですが理工系に強い大学といえるでしょう。ちなみに私が企業の駐在員で滞在していた1970年に月から石を持ち帰ったときに展示会がありそれを見に行ったことがありますので地学関係も強いのでしょう。

近くには、コネチカットへのフェリーの出るポート・ジェファソンという港町があります。美しいヨット・ハーバーのある観光の町です。シーズン中の土・日は、お祭りのような人出になります。貝殻細工のお店やスターバックスやGAPのお店もあり、よい雰囲気をかもし出しています。したがってこの大学には海洋科学学部もあります。

館内の案内をしてもらったときの情報と、カタログ、ウェブを基にその内容を簡単に紹介すると以下のようにあります。詳しくは、大学のウェブ・ページ (<http://www.sunysb.edu/>) を訪問してください。

210万冊の蔵書があり、年間約25万冊が貸出されたり返却されたりしています。全米トップ120のリサーチ図書館のコンソーシアムの会員であり、少なくとも25言語に亘るコレクションがあります。13万の地図、地図帳、地域の写真のコレクションなどがあり、米国でも有数の400万巻のマイクロフォームを所蔵しています。

米国政府のドキュメント、米国特許・商標局と提携して650万件の特許のコピーにアクセスできるよ

うになっています。年間80万超ドル（約9千万円）をかけてオンライン・リサーチ・データベースのリースと1万件を超える電子ジャーナルを購入しておりこのロングアイランド地域では他の機関の追随を許さない状況です。

特別の部署を設けて1万6千冊の古書や手作りの地図、著名な政治家の論文などのコレクションがあります。最後に150名を超える図書館員が働いているとのこと。

この西キャンパス（東キャンパスは主に医学部、付属病院などがある）は、非常に機能的に建物が配置されていて南端のすべての事務や科目登録などを扱うアドミニストレーション・ビルディングからキャンパスの中央にアカデミック・モールと呼ぶ大通りが南北に一本通っていてその道路沿いに各ビルディングが建っています。西の中央にスチューデント・アクティビティ・センターがあり、このメイン図書館も向かい近くの東側に位置しています。スチューデント・アクティビティ・センターは、もう一つ東側を通るバス道路にあるスチューデント・ユニオンと共に学生・教職員用の食堂やコンビニ的な日用品のお店や勉強の出来る空間や郵便局、ATM、娯楽室などがあります。

さて、このメイン図書館は、一階に入って中央左手には、新聞・雑誌などの刊行物、ビデオ、マイクロフォーム、百科事典、文系の参考事典とコンピュータ端末が置いてあり、本学の2階相当のレファレンス部門になっています。理工系用の同様のものが突き当たり2階にあります。本はオープン・スタックで2階から4階までに置かれています。

図書館機能としては、際立って本学の図書館と違いは感じられませんが、私も日本からの留学生も同じように感じていることがあります。それは、1階のレファレンスの入り口の前、つまり、玄関から入って3分の2くらいのスペースをリラックス・ゾーンとでもいうか、広場として使用していることです。

採光のよい吹き抜けになっていて、丸いテーブルと椅子がいくつもおいてあり、軽く朝食や昼食をとりたい人や勉強で疲れたときの休憩場所となっています。また特に留学生にとってはこのビルの5階にインターナショナル・プログラムのオフィスがあるのでそこへの行き帰りに立ち寄って留学生同士の友好を深める場にもなっていて、なかなか規模的に日

本では得られない雰囲気と体験を提供しています。

売店には、りんごとかオレンジ、ケーキとクッキー、それもとびっきり甘いもの、サラダやサンドイッチ、清涼飲料、水、コーヒーや紅茶などが置いてあります。学生の中には、違ったブランドのコーヒーを自分用にミックスしてマイ・コーヒーを造っているのだと自慢げに話してくれるものもいます。つまり、たとえば、売店独自のポットのをカップの3分の1入れてそこにスターバックスのポットから注ぎ足すのです。



先日もそこで休んでいるとインターナショナル・プログラムのセンター長のアレズ教授もおやつを買いに降りてきて、私たち夫婦を見つけて今週末にマンハッタンにいった美術館を見た後にメッツの試合を見に行く留学生用のバス・ツアーがあるので参加しませんかと誘ってくれました。そんなことが起こる場所なのです。当日、松井（稼）選手は出ていなくて残念でしたがアシスタントのマイケルが先頭に立ってレッツ・ゴー・メッツを叫んでピアザの活躍もありブレーブスに8対4で快勝しました。午前11時に出発して大学に帰着いたのが12時ちょっと前ですから彼らのエネルギーには参ります。

館内も日本より多少の会話も出来るようですし、また、コンピュータのチャット機能を利用したレファレンスについての質問を係りの人とできる仕掛けがありますので館内に限らずキャンパス外からもネットで利用できます。

最後に、当たり前のことですが、私のような分野では最近リアルな文献はほとんど使いませんので英文のデータベースの充実には本当にうらやましい限りです。まだ、1ヶ月足らずの観察です。色々な誤解もあると思いますがお許し願いたいと思います。

（やまだ まさたか 経営学部教員）

ジュネーヴ、みんなと大学の図書館 訪問記

竹内 富士雄

ここ何年か、夏はスイスにあるCERN（欧州共同原子核研究所）というところで素粒子とか核に関する実験をしている。実験は年中いつでもできるのだが、授業のない時というとき夏くらいしかない。小生が毎年出かけるのを知っていて、図書館の滝本さんが電話を掛けてきて、CERNから、ジュネーヴ大学まで近いですか、と聞く。割に近いですよという、それならジュネーヴ大学図書館の写真を一枚撮ってきてくれませんかという。おあいご用ですと言って電話を切って数日したらなんと原稿執筆のお願いという印刷物がやってきた。これはひどい。それにまずい。なぜまずいと思ったかという、小生の専門は物理学だが、このジュネーヴ大学というと理科系の人より断然文科系の人々に人気がある事ぐらいは小生でもよく知っている。宗教改革で有名なジャン・カルヴァンとか、言語学者のソシュールとか、小生が名前しか知らない人を研究する神学者や社会学者



にとってはここはメッカなのだ。弱った。あんまり恥をさらしたくないし。でもまあ仕方無いので、実験に一段落ついた秋のはじめのある日、おずおずと、この図書館を尋ねて行った。まず約束の写真を撮って、さて入館の手続きを、と思ったら、ゲートも何もない。するっと中に入ってしまった。つまり誰でもこの立派な建物に、何の資格も無く自由に入れるのだ。館長のAlain Jacquessonさんをおっかなびっくり尋ねて行くと、しきりに人文科学は不案内だと恐縮する小生をとて愛想良く迎え入れ、色々丁寧に説明して下さい、その上あちこち案内して下さい。ジャクソンさん、ありがとう。ここで御礼を申し上げます。

この図書館、というよりスイスの大学の図書館の特色は、Bibliothèque Publique et Universitaire (BPU)というこの正式の名前から推測できるように、ここを利用するにはこの大学の関係者である必要は全く無いことだ。町の誰でも、そして外国人でもここで本が読めるだけでなく、館外貸し出しもできるのだ。小生も、町の図書館はジュネーヴ滞在中には利用するが、なんとここで本を借りることもできるんだ。もっと早く知っておけば良かった。何しろ世界で一番新聞購読数が多いというスイス国民の活字好きの欲望を良く満たす仕掛けになっている。スイスの大学図書館はみんなそうになっているらしい。それとスイスの大学図書館の特徴は dépôt légal の役割も担っていることだそうで、日本では国会図書館が中心となってすべての国内出版物を集めているが、この国ではその役割は分散してBPUが担っているとのこと。ご存じの通り、スイスは小さな国に4つも公用語がある。(フランス語、ほぼドイツ語、イタリア語、それにロマンス語と呼ばれる山の中の言葉。)中央集権ではやっていかれない。それではここはジュネーヴ州(canton)に属するのですかと聞くと、いえいえ、ここはジュネーヴ市に属するのですとジャクソンさんはえらく誇り高げだ。尤も収集物には余り重要とも思えない田舎の消防の機関誌もありまして、と仰るが、スイスの山の中の消防の雑誌なんて何となく面白そう。読んでみたいなどと思った。

一般的なことを色々ご教示願った後、この図書館の目玉は何でしょうかと伺うと Espace Ami Lullin という展示室に案内して展示物をみんな説明して下さい。ここにはJean Calvinはじめ多くの文人の手稿が集めてある。小生に気を遣ってこの作家は勿論外国には知られていないのでご存じ無いでしょうがなどといちいち言われるのでこちらが赤面する。壁には絵が飾ってある。

別室はルソー、Jean-Jacques Rousseau の展示室になっていて、その一角にはジュネーヴの郊外、

Ferney に館のあったヴォルテール関係の文書もある。(Voltaire に関しては古い街の中心部に別に博物館がある。)
「ご存じのようにこの2人はどうも仲が悪くて」とまるでジャクソンさんは友人の事を話すみたいなお調子だ。昔聞かじった構造主義という言葉で知られる Ferdinand de Saussure のソシユール一家というのはスイスでも有名な学者の家系だそうで、文人、地学者、博物学者、化学者、昆虫学者など沢山輩出したらしい。フェルディナンという人は論文を書くのが嫌いな人でしてと云って、彼のメモ書きのある本の表紙を見せて下さる。

ジャクソンさんは最近日本に来られたそう。そこで何に関心を持たれたか伺うと、ある図書館に非常に感心しましたという。この人は根っからの図書館屋だ。聞くと、それは早稲田大学の図書館だそう。一寸驚く。何に感心しましたかと伺うと、その手書きの古文書のコレクションとその展示だという。写真もを見せて下さる。正直言って理科系の人間には余り手稿なんて重要なものとも思えない。ミスプリントがあるというでもなければ印刷物と手稿は同価値に思える。やはり蛇の道は蛇だと思った。

色々写真を撮らせて戴き、きれいな夕日に送られて図書館のある公園を後にした。

帰国して忙しく働いていたある日、図書館から電話。原稿はできましたかという。え、締め切りはいつですかと聞けば、もうとっくに過ぎましたとのこと。帰国してからwebを見ながら色々教わったことを思い出して原稿を書こうと思っていたのにその時間もない。あわてて書いて読み返してみるとなんとこの原稿には図書館に基本的な情報は何も無い。仕方ない、これについてはwebの<http://www.ville-ge.ch/bpu/>を見て下さい。創立 1702 年。

(たけうち ふじお 理学部教員)



インターンシップ・レポート

図書館では、平成13年度から毎年インターンシップ生を受入れています。今年度も9月3日から14日までの10日間、2名のインターンシップ生を迎えました。これから社会へ羽ばたこうとする彼女たちは、図書館で何を学び得たのでしょうか。

図書館でのインターンシップを終えて

京都女子大学3年 内田 喜子

私は今回の京都産業大学の図書館でのインターンシップで、今までの図書館の利用者という立場ではなく、利用者のためにサービスを提供するという立場を経験させていただきました。初めてのインターンシップであり、とても緊張していましたが、職員の方々のお心遣いにより、インターンシップ期間中はとても楽しく過ごすことができました。

このインターンシップではじめに感じたことは「利用者が図書館で本を利用するにはこんなにも多くの人が携わっているのか」ということでした。事前に司書課程の講義を受けてはいたものの、図書館で働いている人々の人数についてはあまり考えたことはありませんでした。また、職員の方々における働き方の形態も様々で、このように様々な形態があることも初めて知りました。

そして何より感じたことは、図書館での業務が想像していた以上にあったということです。利用者という立場から窺い知ることができる業務はカウンターでの貸出・返却業務、書架を整備する業務のような図書館内で実際に働いている姿を見ることができる業務であると思います。しかし、インターンシップではこれらの業務の他に様々な業務、本の発注・受入業務、目録関係業務、参考業務、管理関係業務、電子情報関係業務、書庫関係業務、雑誌業務、またこれらの他にも様々な委員会が立ち上げられていることを知りました。そして、これらの業務を少しずつ経験させていただくことによって、これら一つ一つの業務が全て繋がることによって図書館全体が成り立っているということを実感しました。

より多くの人々が図書館に訪れるように。利用者がより快適に図書館を利用することができるように。私がこのインターンシップで職員の方々とした時に感じたことです。このような職員の方々の思いに応えるためにも、一利用者として残りの大学生活でより図書館を利用していきたいと思います。そしてこのインターンシップでの経験が活かせるように頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。



カット 小金丸 崇宏 美術部3年

裏から見た大学図書館

龍谷大学3年 森野 沙緒里

私は今回就職活動を前にして、大学での仕事に興味があり、大学図書館で働くというのはどのようなものなのかを知っておきたいと思い、インターンシップ実習生として京都産業大学に来ました。私の大学にも図書館はあるので、それなりに仕事の内容は分かったつもりでいましたが、実際に仕事してみると、それは全く違っていました。実習前の図書館職員のイメージは、カウンターにいて本の貸し出しをしたり、学生の質問に答えたりというような一部の業務だけのイメージだったのですが、当然仕事は他にもたくさんありました。例えば、大学図書館には学生が読む本だけではなく、教授や大学院生の方々が研究で使う外国語だらけの本や雑誌も次々に入ってきます。そして、それらにも全て登録番号をつけ、分類によって仕分けたりします。本が入ってくる限り仕事には終りがないので、とても根気のいる仕事だと思いました。

勿論学生のためにも、より図書館を利用してもらえるように、より充実した空間を提供できるように様々な試みをしていて、そのために会議もたくさん行われていました。例えば、図書館の資料を学生に気軽に楽しんでもらえるように展示の企画をしたり、感性を高めてもらえるようにいろんな国々の映画を上映したりしていました。又、図書館報では、学生と協力して作成することで、もっと読みやすいものにしていこうという努力を感じました。私は、こんなにも学生のために図書館の改善をしようとしていることにとっても驚きました。私は今まで、図書館をゼミの調べ物や、インターネット、試験勉強のためにしか使っていなかったのも、もったいないことをしていたのだなと思いました。

今回の実習で図書館をよく知ることによって、本を読む大切さも知りました。大学生は、学校の課題、遊びやバイト等したいことがたくさんあってすごく忙しいと思います。でもそんな忙しい中でも、今、いろんな知識を吸収することが大事だと気付きました。本を読むことで、今以上に教養や知識が広がれば、より面白味の多い人になれる気がします。この大学にはそのための施設は十分にそろっているので、あとはそれをうまく使えるかだけだと思います。だから私も含めてですが、学生には今以上にもっと図書館を利用して欲しいと思いました。

情報の探し方

このコーナーでは、最近導入したデータベースの検索ツール等を紹介します。

レファレンスサービスって何？ ～文献調査編

図書館のレファレンスカウンターでは、皆さんの様々な問合せにお答えしています。それらは3つに分けられます。まず「図書館の開館時間」や「辞書はどこにありますか」などの利用案内、次に「小泉首相の経歴やNGOは？」等の事柄について、3番目に文献検索があります。今回はレポート作成のための文献検索について紹介していきます。

大学生ともなると、授業でレポート作成を課せられることが多いかと思えます。なんらかのテーマを決め、それに関する文献、図書や雑誌記事、新聞記事などを探さなければならないになります。

あるレファレンス情景

1年生と思われる見るからに初々しい男子学生が、レポート提出期限が迫り、2階のレファレンスカウンターへ駆け込んできました。

「イラク戦争の資料を探しているんですが。」
参考担当の係員は、落ち着き払って何の授業、先生の名前はと聞きながら、学生が落ち着いてきたところで・・・。

「それでは、資料を本格的に探す文献調査の前に、そのテーマについての基本用語、関連語などを調べて、文献調査で使用するキーワードを探して見ましょう。また、そのテーマの様々な背景を知ることによって、最初おぼろげであった自分のテーマが徐々に絞ることができるのではないかと思います。」

事前調査での主な検索ツール

- 百科事典 「ジャパンナレッジ」「世界大百科事典」
- 専門事典 法学事典、経済学事典など
- 基本図書 ～入門、～概論、～の基礎など

「例えば、「ジャパンナレッジ」といって、便利な百科事典データベースを使ってみましょう。」

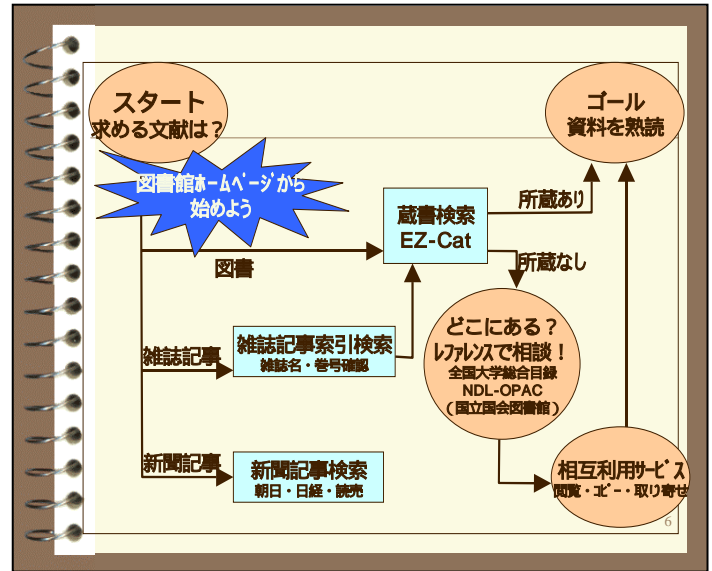
イラク戦争で検索して、概要や様々な関連語を知ることができます。また冊子体の百科事典と違い、発行されてから以降の新しい事実も掲載されています。

「紹介した百科事典等は必ず2種類以上を使って、比較してみましょう。」

比較することによって、学問的な共通点や相違点を知ることができます。また、必ず索引を使って関連するページも探して見ましょう。

文献調査の流れ

前掲のレファレンス情景以降どのようにして文献を探すかの流れを簡単にまとめてあります。



図書館ホームページから「検索ツール」、検索ツール内の「データベース」ページ、または「分野別」ページからアクセスできます。

上記の他に、図書館の利用案内、分野別の参考図書や各データベース等を紹介しています。資料を探す上で役立つ「文献・情報の探し方 2004」も検索ツールに掲載していますので、ぜひご利用ください。

お困りの場合はレファレンスカウンターまで

図書館の膨大な資料や情報のなかから必要なものを探し出す方法、図書館にない資料や情報の入手法、これらのノウハウを身につけることは、学生生活を送るためだけでなく、卒業後に企業や官庁で仕事をするためにも、必須の条件となりつつあります。これらのノウハウは、ガイダンスを受けたりレファレンスカウンターで相談して図書館を利用するうちに、自然に身につけていくはずで。

大学の図書館は、そこにある資料を読み、調べ、借り、コピーするだけの場所ではありません。役に立つ情報の探し方を覚える場所でもあるのです。

ぜひ文献調査に限らず、図書館を利用する上でわからないことがあればお気軽に声をおかけ下さい。

文

書

罪と罰

この作品は、文化学部の先生から、人生読まずに死ぬな」と薦められて読んだが、これほど「人間の弱い」主人公は初めて見た。その主人公は、ロシアの赤貧大学生ラスコーリニコフといい、「強者は弱者を犠牲にしてよい」という考えから、高利貸しの老婆とその妹を殺してしまふ。ここから、彼の悲痛で激しい苦悩は始まる。ポルフィリイ判事による殺人事件の追及に、彼の内心はかなり焦っているのに、表では平静を装い、言葉巧みにかわしていく。私はこの2人のやりとりが見所だと思うが、弱く脆い人間の本性も垣間見ることになる。しかし、もし、私達がラスコーリニコフと同じ境遇であったなら、彼と同様、精神異常をきたすかも知れない。誰でも弱く脆い所はあり、自分を全てコントロール出来るとは限らない。



983-DOS-1 / 2階-文庫

『罪と罰』（新潮文庫）
ドストエフスキー著 工藤精一郎訳
新潮社 一九八七年

著者ドストエフスキーの、深く詳細な人間描写に感動しつつ、「罪と罰」という題名の意味を本文中至る所で読み取ることが出来る作品である。みなさんも、この作品を読み、出来ることなら目を背けたい人間の弱さを感じることで、自分を知るきっかけにしてみませんか。
法学部2年
荒田 紗希（あらた さき）

Lib.

神山人から

雑

誌

韓国語ジャーナル

ワタクシ時々、日本語つまいですね」と言われることがあります。大阪生まれの韓国系日本人です。韓国語はさっぱりだったので、一年ほど前から韓国の環境政策への関心が深まり、熱心に韓国語の勉強を続けています。韓国語は日本語とよく似ていると言われ、すぐに身に付くと思っていたのですが、実際には思ったより難しい。発音は（おそろく）フランス語並みに難しく、明快なはずのハンゲル文字にもなかなかなじみません。目と耳の両方から楽しく学べて身によく付く教材はと探していたところ、彗星のごとく現れたのが『韓国語ジャーナル』。とにかく付属CDが充実していて、ハン・ソッキュやユンソナ、ホン・ミヨンボなどの有名人へのインタビューから、話題の映画の紹介、時事問題まで幅広い



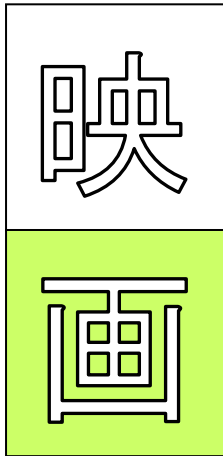
829KAB3 / 2階-雑誌

く採り上げ、韓国のヒット曲を数曲収録しています。しかも、これら全てにテキストが付いているので、イキのいい韓国語の聞き取り・書き起こしの訓練に最適。おかげで、最近仕事で韓国に行った時には私の韓国語はほぼ通じ、会う人会う人「韓国語つまいですね」。まあ、うまいと言われている間は、まだまだなんですよっけどネ。
経済学部教員
朴 勝俊（ぱく せんじゅん）

『韓国語ジャーナル』アルク

『プリジット・ジョーンズの日記』の製作チームによるラブコメの傑作『ラブ・アクチュアリー』は、十九人も男と女による群像劇。その中心となる人物がヒュー・グラント演ずる英国の首相で、彼が英国首相というだけでも何やら可笑しいのに、英国を訪れる合衆国大統領として颯爽と現れたのが、ヒリー・ポブ・ソーントン（アンジェリーナ・ジョリーの元旦那）だったので笑ってしまっただ。しかも、役柄が大統領なので「応はきちんとした身なりをしてるのに、やっていることはイメージ通りのセクハラまがいのことだった。」

ラブ・アクチュアリー



物語が錯綜し、ラストでひとつにまとめ上げられる脚本が素晴らしい、そのすべての恋する人たちに注がれる作者の暖かい眼差しが感動的である。
あるエピソードには「裏返した形」でのドンデン返しが目撃されている。これがどういう意味なのか、未見の方で気になる方は、ぜひ作品で確かめていただきたい。

外国語学部卒業生・映画サークルOB

加藤 仁久（かとう ひとひさ）



Love Actually

監督・脚本
Richard Curtis

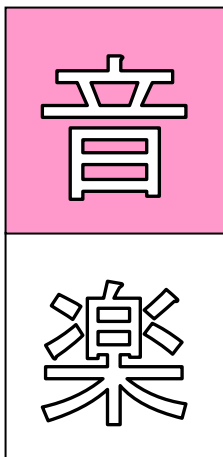
2003年

3H 778.233-CUR
LL センター

なび

のオススメ!

展覧会の絵



「展覧会の絵」は私が眠らずに最後まで聴けた最初のオーケストラ作品であり、絵画を主題とした小曲を、絵から絵へと展覧会を楽しむように展開されていく組曲で、オーケストラの曲は長いし眠いという方にも、とても聴きやすい作品である。
この曲はムソルグスキーがペテルブルグで開かれた親友のハルトマンの遺作展を訪れて、その絵画作品から得た印象をピアノ組曲として作曲したものが原曲である。私たちが良く耳にするオーケストラ版は「ボレロ」で有名なラヴェルの編曲であり、この曲は管弦楽、吹奏楽への編曲に加え、ロック版、ヘヴィ・メタル版、シンセ版など、あらゆるジャンルにアレンジされている。
クラシック音楽のアレンジとしては一時、平原綾香がホルストの組曲『惑星』のなかの「木星」をアレンジして話題を

呼んだが、木星の美しい旋律は管楽版として故ダイアナ妃の葬儀でも使用されていた。クラシックの旋律は長い年月をかけて人々に愛されてきたロングセラーである。クラシックに興味がない方もまず音楽に触れてみることをオススメする。芸術は創造の連鎖を生むことができる。きっとあなたも創造的な刺激を得ることができるだろう。

また、展覧会の絵の題材となったハルトマンの絵については一九九一年にNHKのドキュメンタリー番組で取り上げられたが、これについては團伊玖磨NHK取材班著『追跡ムソルグスキー「展覧会の絵」』（日本放送出版協会、一九九二）として出版されているので、興味のある方はご覧になってはいかがでしょうか。音楽から絵画へ、資料から資料へと渡り歩いていくのも図書館のたのしみ方である。

経理部職員

安井 正典（やすい まさのり）

教員文庫寄贈一覽

寄贈順(4/1~9/30) 敬称略

- 生田 真人**(外国語学部)
『ウィーンの演劇と検閲』 郁文堂, 2004
- 森 哲郎**(文化学部)
『京学派の思想 種々の像と思想のポテンシャル』
人文書院, 2003
- 川越 いつえ**(外国語学部)
『A new century of phonology and phonological theory』
開拓社, 2004
- 藤野 敦子**(経済学部)
『発展途上国の児童労働 子たくさんは結果なのか原因
なのか』 明石書店, 1997
- 塘 茂樹**(経済学部)
『国民経済学』 嵯峨野書院, 1994
- 石本 泰嗣**(名誉教授)
『経済史 - 西と東』 泉文堂, 1991
- 牛瀧 文宏**(理学部)
『なっとくする演習・行列ベクトル』 講談社, 2001
- 植村 進**(名誉教授)
『25
" "』, 2003
- 中山 茂樹**(法学部)
『生命の倫理 その規範を動かすもの』九州大学出版会,
2004
- 石井 教文**(法務研究科)
『注釈民事再生法 上・下』 金融財政事情研究会, 2002
『新会社更生法の理論と実務(判例タイムズ1132)』
判例タイムズ社, 2003
- 大木 裕子**(経営学部)
『オーケストラのマネジメント 芸術組織における共創
環境』 文眞堂, 2004
- 野崎 京子**(文化学部)
『New wave : studies on Japanese Americans in the 21
st century』 京都大学人文科学研究所, 2004
- 狭間 直樹**(外国語学部)
『革命論集(中国文明選15)』 朝日新聞社, 1972
『日本新聞五四報道資料集成 京都大学人文科学研究
所, 1983
『中国歴史学の新しい波 辛亥革命研究について』 霞山
会, 1985
『中国近代史 1840 - 1924』 平凡社, 1974
『中国国民革命の研究』 京都大学人文科学研究所, 1992
『梁啓超・明治日本・西方』 社会科学文献出版社, 2001
『辛亥革命の多元構造: 辛亥革命90周年国際学術討論会
(神戸)』 汲古書院, 2003
- 芦立 秀朗**(法学部)
『日本の政治経済とアジア諸国』 国際日本文化研究セ
ンター, 2003

- 須藤 眞志**(外国語学部)
『真珠湾「奇襲」論争 陰謀論・通告遅延・開戦外交』
講談社, 2004
- 岩本 誠吾**(法学部)
『現代安全保障用語事典』 信山社, 2004
- 三好 準之助**(外国語学部)
『スペイン語文法評論』 三修社, 1993
『スペイン文法中級コース』 白水社, 1994
『中級スペイン文法』 白水社, 1995
『スペインの言語』 同朋舎出版, 1996
『簡約スペイン語辞典』 大学書林, 2000
『スペイン語の歴史』 昭和堂, 2004
『Los americanismos lexicos』 Ano Academico, 2003-2004

Information

👉 秋学期図書館利用教育の申込みについて

ゼミクラス対象文献探索ガイダンス

内容: テーマ別の文献検索法やデータベース・イン
ターネットの検索実習

実施期間: 10月4日(月)~12月25日(土)

申込期限: 12月18日(土)

ゼミクラス単位でお申込みください。

申込: レファレンスカウンター

レポート・論文作成法

ビデオ上映

内容: レポートや論文を書くときの具体的な手順を
ドラマ形式で紹介したビデオの上映(35分所要)

実施期間: 12月上旬~2週間 昼休み時間

検索実習 事前申込みが必要です。

内容: 資料を収集する際に便利なデータベース「雑
誌記事索引」、新聞記事の検索実習(30分所要)

申込: 1階視聴覚カウンター

詳細はPOSTでお知らせします。

実施期間中は図書館1階パソコン室で検索実習用に
パソコンを使用します。他の情報処理教室等をご利用
ください。

▶ 編集後記 ◀

秋の夜長に、京都散策にと、今号の特集を活用して
いただければうれしく思います。ご協力いただいた美
術部の小金丸さん、榮村さん、辻さん、デザインクラ
ブの佐伯さん、出版研究会の後藤さん、写真部の安永
さん、いろいろお世話になりありがとうございました。

発行 京都産業大学図書館

所在地 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

電話 (075)705-1446